

留萌市立病院改革への船出

－ 留萌市立病院の果たす役割と経営健全化 －

公立病院としての機能

- ・地域センター病院機能の強化
- ・救急医療体制の維持
- ・育成(周産期)医療の強化



特色ある病院としての機能

- ・消化器病センターの確立
- ・人工透析治療提供体制の安定維持
- ・診療所(在宅療養支援診療所)の機能強化



公立病院としての附帯機能

- ・災害時における適時適切な対応
- ・予防医療の拡大



留萌市立病院の役割と経営健全化

留萌市立病院の役割は、市民の生命と健康を守るため、公平かつ良質な医療を安定的に提供することです。

また、『地域センター病院』として、地域の医療水準の向上に貢献することでも大切な使命です。

留萌市立病院は、地域医療機関では対応が困難又は対応していない政策医療を中心とした急性期医療を提供しています。

今後も、地域の医療資源の有効活用を図る観点から、地域医療機関との役割・機能分担を明確化し、効率的な医療提供体制の構築に取り組みんでいきます。

平成21年度 診療体制

[平成21年4月1日現在]

▼消化器内科医が2名減となりますが、外科医が3名から4名体制へ、又、固定医として脳神経外科医1名、皮膚科医1名、産婦人科医1名が配置され、地域医療の充実が図られました。

○固定医体制(26名)

・消化器内科(7名)

⑨白尾さや香 医師

・小児科(2名)

・循環器内科(1名)

・外科(4名)

⑨山崎左雪 医師

⑨野田雄也 医師

・整形外科(4名)

⑨金谷久美子 医師

⑨小林拓馬 医師

⑨齋藤 憲 医師

・皮膚科(1名)

⑨神谷崇文 医師

・泌尿器科(2名)

⑨千葉博基 医師

・麻酔科(2名)

・産婦人科(1名)

・病理診断科(1名)

・脳神経外科(1名)

⑨多田光宏 医師

○研修医(4名)

⑨白井丙午郎 医師

⑨長谷川智一 医師

○出張医体制

呼吸器内科／耳鼻咽喉科

形成外科／神経精神科

放射線科／眼科

※⑨は、4月から留萌市立病院で勤務される医師の皆さんです。

病院事業会計予算は、「留萌市立病院改革プラン」に基づき、収入の確保と費用の抑制を進め、単年度の収支均衡を図ることを最大の目標に編成しました。

収入は、脳神経外科、皮膚科、産婦人科等で固定医師が確保できたことにより、約53億円とし、又、費用では職員給与の独自削減で約1億9千万円、出張委託料で7千万円、委託契約内容の見直しで1千万円の合計2億7千万円の圧縮を図ることとしました。

これらの改善策を進めることにより、平成21年度では5千3百万円の黒字経営と見込んでおります。今後も医師確保に努め、地域のセンター病院として市民の皆様の生命と健康を守り続けていきます。



多田光宏 (ただ・みつひろ)

脳神経外科専門医●1957年生まれ
1982年北大医学部卒業／抗加齢医学専門医／現在北大准教授として、遺伝子・生命情報科学研究を行う

昨年、私は留萌に住む多くの方と親しく交わり、そうした出会いの中で、私の人生にとって貴重な経験をすることができました。

そのきっかけは、市民の皆さまとともにいう医学研究を通じて、地域医療を再生するというコホートピア構想を開始したことでした。

その過程で、留萌市立病院の経営改善と地域医療の充実に、脳神経外科医の常駐が必須であることを知り、留萌市立病院にて脳外科医として勤務するかたわら、るもいコホートピアの事業を推進するため、大学を辞め、留萌の地に赴くことにしたのです。

保健・医療・福祉を一体として改革再生するという事業構想のため、脳神経外科医として、まず地域の救急医療の体制を整備することが最初の任務だと考えています。そのため、地域の救急隊の方々との交流も既に開始しております。

また、抗加齢医学専門医として脳卒中・認知症などの生活習慣病の予防活動を推進や、最近勉強し



山崎左雪 (やまざき・さゆき)

外科医●1957年生まれ
1982年旭川医科大学卒業／勤医協に就職し、札幌、函館、当別、旭川、釧路など道内の病院で勤務

4月より留萌市立病院に赴任しました、外科の山崎左雪です。

私は、以前から過疎地の医師不足に悩んでいる地域に貢献したいという気持ちを持っており、北海道から外科医師を募集している留萌市立病院を紹介されました。

当時、北海道からは留萌市立病院のほかに5箇所程度の病院を紹介していただきました。

病院を決める前に、一度、留萌

取得した介護支援専門員としての知識も生かして、回復期リハビリテーションから居宅での介護にいたるまで、脳卒中の患者さまに対する切れ目のないケアを提供できるシステムを作り上げていきたいと考えております。

つまり、脳卒中を最大限予防しつつ、一旦不幸にして病気にかったときは、速やかに適切な治療を開始して障害を最小限にして、十分なりハビリテーションを留萌市立病院で行い、地域のかかりつけ医・在宅診療医への連携と介護事業者との協同体制にて、「脳卒中難民」となることなく、自宅にて安心した生活を過ごせるような地域連携システムを作りあげたいと考えています。

もちろん、こうしたことは一人の力ではできないのではなく、今まで知り合った方や、これから知り合う多くの方の協力によりできるものだと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

市立病院を訪問したとき、笹川院長や越湖副院長とお話して、留萌市立病院での医師不足のお話を聞き、是非この病院で働きたいと強く思い、このたび医療チームに参加させていただくことになりました。

はやく地域にとけこみ、より良い医療をめざして奮闘していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。